

令和7年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和7年5月13日(火) 午前10時00分から午前11時30分		
視 察 先	岡山県倉敷市	人口・世帯数 (R7.4月末現在)	471,928 人 222,146 世帯
		面積	356.07 km ²
担 当 職 員 等	防災危機管理室 危機管理課		
視 察 内 容	西日本豪雨災害後の教訓を活かした取り組みについて		
視 察 目 的	本市においても、曾我町・曲川町の浸水災害をはじめ様々な水害を経験してきた。岡山県倉敷市における平成30年7月豪雨災害を受けての取り組みや教訓は本市において将来的にかなり参考になるものとして視察を行った。		
調 査 概 要	平成30年7月5日から7日にかけての積算雨量は294.5ミリを記録した。複数の堤防が決壊、真備地区4,400ヘクタールのうち、1,200ヘクタールが完全に水没するという、まさに倉敷市はじまって以来の未曾有の大災害であった。 死者75名（災害関連死23名）全壊4,646棟、半壊1,192棟、事業所被害約84億円、農業被害約11億7千万円。 復旧しながら再生を図り、再生しながらより良い地域を創造していくことを目指し復興計画を策定し実行に移す。 行政、民間ボランティアが連携し、倉敷市の更なる発展をめざし今なお尽力している。 災害後の主な取り組み ・倉敷市災害に強い地域をつくる検討会発足 ・緊急告知FMラジオ購入補助事業 ・洪水・土砂災害ハザードマップの改訂 ・高潮ハザードマップの作成 ・総合防災情報システムの導入 ・「黄色いタスキ」の取り組み		
所 感	資料での説明を受け、総合防災情報システムを実際に見学させていただいた。複数のディスプレイにリアルタイムで状況をキャッチ。避難情報や現場写真等を把握することで被害の拡大を防ぐ手法をご教授頂いた。平成30年7月の豪雨では洪水・土砂災害ハザードマップと実際の洪水箇所が類似しており、各々がハザードマップをみてどこが洪水しやすいのか、避難はどこにしなければならないのか事前確認の重要性にあらためて気づかされた。今回の倉敷市の視察で得たことを本市においても活用できるよう努力していきたい。		